

嚏

命云長談鴻寶集無離小乘經云々鴻寶集ト云ハ大乘經ヲ云也因茲文集ヲバ古人モ大乘經之次小乗教之上トゾ云ケル故橋孝親ハ常信之敢以不忽諸凡反古ナドニモ敢鼻カマヌ人也云々

〔倭名類聚抄鼻三〕鼻嚏陸詞切韻云略中玉篇云嚏丁計反和名波奈比流噴鼻也

〔箋注倭名類聚抄鼻二〕按比流之言簸也如箕之簸物去滓也今俗呼久左米按爲兒嚏誦云久左米

久左米見徒然草蓋累稱休息萬命急呼爲久左米也休息吳音讀如若足休息萬命急々如律令

嚏時誦文見拾芥抄今鄙人嚏則呼噉糞亦久左米之譌也略按玄應音義引蒼頡云嚏噴鼻也顧

氏蓋依之釋名嚏嚏也聲作嚏而出也嚏俗寔字寔礙不行也按說文嚏悟解氣也又云欠張口氣悟

也是許氏以嚏爲欠然禮記內則云不敢嚏又云不散欠素問說五氣所病腎爲欠爲嚏皆以嚏欠爲

二事月令民多勲嚏亦謂鼻塞而噴嚏許氏解說恐不可從

〔類聚名義抄二〕嚏音啼ハナヒル

〔伊呂波字類抄波〕噴鼻ハナヒセトモ嚏同塞鼻已上同

〔增補下學集上二〕嚏ハナヒル

〔萬葉集古十一〕相聞往來歌寄物陳思

晒鼻乎曾嚏鶴劔刀身副妹之思來下ウチテグキハナラゾヒツルツルギタチニソフイモガオモヒケランモ

〔枕草子九〕宮一條后藤原定子にはじめてまいりたる比物など仰られて我をば思ふやとはせ給ふ御

いらへにいかにかはとけいするにあはせてだいたん所のかたにはなを高くひたればあな心

うそらごとするなりけりよしとていらせ給ひぬいかでかそらごにはあらんよろしう

だにおもひきこえさすべき事かははなこそはそらごとしけれとおぼゆさてもたれかかくに

くきわざしつらんと大かた心づきなしとおぼゆればわがさる折もをしひしぎかへしてある

をましてにくしとおもへどまだうゐくしければともかくもけいしなをさで明ぬればおり